

丹波高原につつまれ 人の交流・連携で築く めくもりと躍動のあるまち

広報 京丹波



KYOTAMBA TOWN

[特集]

地域アイデンティティを考える 「京丹波町」って どんなまち?

2006 A HAPPY NEW YEAR

(明けましておめでとうございます)

「2006」は瑞穂大納言小豆、「A HAPPY NEW YEAR」は丹波黒、和知黒。これらは丹波高原の豊かな自然が育んだ京丹波町が誇る特産品。



CONTENTS

- 新春ごあいさつ2・3
- わたしの年賀状・成年生まれの人登場.....4・5
- 特集・地域アイデンティティを考える6~9
- シリーズ・地域の躍動①10・11
- 2005年主なできごと12
- 人の動き・わくわくBOX13
- フラッシュ TOWN NEWS 200614・15
- まちの元気人①16

発展への確かな礎を 築く年に

京丹波町長

松原 茂樹



町民の皆様、明けましておめでとうございます。平成十八年の輝かしい新春をご家族おそろいで、ご機嫌よくお迎えになりましたこと、心から喜び申し上げます。

本町にとりまして昨年は、半世紀の輝かしい歴史を刻んだ丹波町・瑞穂町・和知町の三町が十月十一日に合併し、「京丹波町」として新しいまちづくりをスタートさせました、まさに歴史的な年でございました。

わたしは、皆様のあたたかいご支援を賜り、初代町長として町政をあずかることになりました。京丹波町の最初のまちづくりを負託された重みをしっかりと受けとめ、住民福祉の向上と京丹波町の飛躍のために全力でまい進してまいりたいと存じます。

さて、顧みますと、昨年は全国各地で幼い命が奪われる凶悪な犯罪や、多くの人びとが犠牲になる痛ましい事故など、日常生活の安心・安全を脅かす事件・事故が多く発生し、混とんとしたものがありませんでしたが、経済情勢においては、長引く不況のなかにも、景気の回復を感じる話題が見え始めており、この兆しが回復への確かな光となることを念じる次第であります。一方、地方自治体を取り巻く環境は厳しさを増しており、国が進める三

位一体の改革など地方行政の構造改革が進むなど、それぞれの自治体の力量がより試される時代に差し加かってまいりました。

このときあたり本町は、合併の理念でございます財政難の克服、自治能力の向上、総合的な行政力の展開を図りながら、地方分権時代にふさわしい「スリムで効率的な行政」、町民の皆様との対話と情報開示を積極的にを行い、「町民の主体性が生かされる行政」、「町民に開かれた信頼される行政」を目指してまいりたいと存じます。

本年はとくに、早急な課題として、バス路線の再編に取り組んでいきます。運行形態も含め効率的・効果的な運行システムや、きめ細かなサービスを検討し、町民の皆様にとつてよりよいバス路線のすみやかな構築に努めていきたいと考えています。

また、旧三町間でそれぞれ異なる情報手段の整備も早期の課題であり、ケーブルテレビによる一元化に向けた取り組みにも着手してまいりたいと考えています。

さらに町域のすみやかな一体化を図るため、住民自治組織の活動を支援する助成制度の設置にも努めていきます。

このほか、道路整備や上・下水道整備などの社会資本整備をはじめ、保健・福祉・医療のさらなる充実、産業の振興、教育の推進、若者定住への取り組みも重点事項として進めていきます。

京丹波町として初めて迎える新年が、発展への確かな礎を築く年となるよう、行政と議会が相携え、懸命の努力を重ねてまいりますので、町民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

今年も、町民の皆様にとりまして、お元気で幸せ多い年でありますことを心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。

京丹波町議会議員

岡本 勇



新年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、平成十八年の輝かしい新春をご家族おそろいで迎えられ、謹んでお祝い申し上げます。

昨年は、協議を続けて参りました丹波町・瑞穂町・和知町の合併が、町民の皆様のご理解とご協力の下に整い、「新町・京丹波町」が発足いたしました。十一月二十日に行われました町議会議員選挙におきまして新たに十八名の議員が選出され、不肖私が京丹波町議会初代議長の重責を担うことになりました。町民の皆様のご期待とご信任を頂き、「新町・京丹波町」の限らない発展のため議員一丸となって取り組んでまいります。

合併は、行財政改革や少子高齢化対策、高度情報化社会、地方分権の進展など、これからの時代に自主的・主体的な自治の運営を目指す大きな変革であり、好機でもあります。

平成十八年は、合併に先立ち策定されております「新町まちづくり計画」の初年の年になります。また、合併までに調整できなかった項目や合併以後の町民の皆様様の様々な課題や不安の解消に向けて、速やかな対応が求められております。

国の三位一体改革など地方自治体の財政状況は、ますます厳しい状況に直面しておりますが、町行政、議会、町民の皆様と協働による一体感の持てる均衡あるまちづくりを進めていかなければなりません。地方分権時代にふさわしい、開かれた議会として、町民の皆様様の負託とご期待に応えらるよう懸命に努力をいたしてまいります。

町民の皆様のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。本年が「京丹波町の躍動の年」として、併せて皆様のますますのご健康、ご多幸を心からお祈りいたしまして、年頭のごあいさつといたします。

友好町

北海道上士幌町長

竹中 貢



新年明けましておめでとうございます。京丹波町のみなさまには、希望あふれるさわやかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

日本経済は、株価が五年ぶりに一万五千元を回復するなど、回復基調にあると言われていますが、地方においては、依然として厳しい状況が続いております。

町財政においても、地方交付税が大幅に削減されるなど、かつてない厳しい状況にあり、さらに「三位一体の改革」では、小さな自治体は税収増が見込めず、先行き不透明な状況にあります。

このようななかにあつて、丹波町、瑞穂町、和知町の三町のみなさまが将来を見据えたなかで新しいまちづくりについて協議を行い、「新町・京丹波町」としてスタートを切り、松原町長を先頭に町民のみなさまが一丸となつて、新たなまちづくりを推し進めることに敬意を表します。

本町におきましては、新しい自治のかたちとして役場、町内会、NPO、その他民間などが連携する協働のまちづくりを目指し、取り組んでいるところであり、地方財政が一段と厳しくなるなかで、これまで以上に住民と行政がパートナーシップの関係を築くことが大変重要であると考えています。

最後になりましたが、貴町の限らないご繁栄とみなさまのご多幸とご健勝をお祈りして新年のごあいさつといたします。

いぬ 成年生まれの人 登場



新年明けましておめでとうございます。
今年のえとは「戌」。このページでは本町の「成年」生まれ
1,349人の中から7人の皆さんに登場していただき、
今年の抱負など自由に語っていただきました。

たけうち ひろみ
竹内 大視さん
(栗野)
昭和 57 年生まれ



一日一日を大切に、感謝の気持ちを忘れずにいたい

京丹波町として初めての新年を迎え、わたしは当たり年という偶然に驚いています。

今年の4月で社会人4年目。日々多くの方に支えられ、ここまでこれたと思います。一日一日を大切に、日ごろお世話になっている方々に感謝の気持ちを忘れずにいたいと思います。

家族を含め、京丹波町の皆さんにとって健康で良い年になりますように。

おくど としひさ
奥戸 俊寿さん
(西河内)
昭和 33 年生まれ



都会の人がうらやむようなそんな地域にしていきたい

さまざまな行事を通じて地域の人とふれあいを大切にしていきたいと思います。

田舎の良さを残し、都会の人がうらやむような地域になるよう、できる範囲で力を注いでいけたらと思います。

最近、全国的に幼い子どもの命が奪われる事件が発生していますが、今年こそ明るい年でありますように。

やまざき さちよ
山崎 佐智代さん
(曾根)
昭和 9 年生まれ



バランスよい食事と適度な運動で元気に過ごしていきたい

バランス良い食事と適度な運動に心がけ、元気に過ごしていきたいですね。

また、散歩などのかたわら、登下校する子どもにあいさつしたり、ひと声掛けたりして、地域の子どもの安全を見守ってあげたいと思います。

大正琴と編み物のサークルを通じて、友だちとの交流も深めていきたいですね。

いまにし まりえ
今西 麻理英さん
(竹野小・6年)
平成 6 年生まれ



中学校でもホッケーを続けて活躍したい

わたしは1年生のときにホッケーを始めました。最初は先輩に怒られてばかりで、辞めたいと思ったこともあったのですが、2年生のとき、先輩のゴールキーパーにあこがれ、わたしはゴールキーパーになり、がんばって練習してきました。

昨年の西日本大会で優勝でき、うれしかったです。中学校でもホッケーを続けて、活躍したいです。

くぼもと さちよ
久保元 さちよさん
(小畑)
昭和 45 年生まれ



家族の団らんや人との交流を大切に

明けましておめでとうございます。和知で生まれ、和知で育てて35年。毎日、元気に暮らせることに感謝しています。家族の団らんを大切にしながら、家族みんなが健康で、元気に過ごせたら良いと思います。

また、人との交流を大切に、仕事も私生活も楽しく過ごしていきたいですね。

きむら ふき
木村 富貴さん
(和田)
昭和 21 年生まれ



家の周りを花いっぱい飾りたい

「健康第一」、とにかく健康で元気に一年を過ごすことが目標です。

わたしは花が好きで、庭先で色々な花を育てて、休日にはガーデニングを楽しんでいます。退職したら、家の周りを花いっぱい飾りたい、ささやかですが、そんな夢を描いています。

皆さんにとって幸せ多い一年でありますように。

えなべ ふみお
江邊 文夫さん
(下乙見)
大正 11 年生まれ



執筆活動に専念していきたい

明けましておめでとうございます。

今年は執筆活動に専念していきたいと思います。以前に和知町誌の編さんに携わっていた関係で、和知という地名の由来などに関する著書を発行できればと考えています。

また、これまで発行してきた著書の続編にも取り組みたいと思っています。

地域アイデンティティを考える

「京丹波町」って どんなまち



京丹波町が誕生してから約三カ月。京丹波町として最初の新年を迎え、これから新しいまちづくりを進めるにあたって、いま一度、わたしたちのライフステージであり、ふるさとである「京丹波町」の地域特性を再認識してみましよう。

今回の特集では、このあたりの地名「丹波」の由来や、地理的条件、文化など、さまざまな角度から京丹波町の地域アイデンティティ（地域の特性、個性）をみていくとともに、町民の皆様の話や、都市住民の方々に聞いた「丹波」という地名がもつイメージなどをもとに、「京丹波町らしさ」のあるまちづくりについて、考えていきます。

「丹波」の地名の由来

京丹波町が位置する京都府中部から兵庫県の一部（篠山市、丹波市など）にまたがる地域は、古くから「丹波」と呼ばれています。

古代の丹波国（たんばのくに）は、京都府北部を含む大な国でしたが、奈良時代初期に丹波国の北部が丹後国として分立しました。

古事記・日本書紀などには、「但波」「丹婆」の記述があり、これは「丹波」を意味しています。この丹波という地名、そのいわれは、古くからの言い伝えがいくつか残っています。

▼湖水説

丹波とは赤い波の意であって、太古この地方は湖であり、その水が赤かったため、国名を丹波と呼ぶようになったという説。

河岸段丘上に集落ができ、都の影響を受けながらも、周囲を山で囲まれた地理的条件などから、独自の生活・文化を形成してきた地域でもあります。

京丹波町でも、和知人形浄瑠璃をはじめとする和知地域の四大伝統芸能や、江戸時代から伝わる丹波地域・丹波八坂太鼓、瑞穂地域・質美八幡宮の曳き山行事など、各地域にさまざまな伝統文化が息づき、今もそれぞれの地域の人びとの努力によって守られています。

また、琴滝や質志鐘乳洞、長老ヶ岳などの名勝や、豊かな自然環境を生かしたグリーンランドみずほ、わち山野草の森など観光資源が点在。国の重要文化財に指定された由緒ある神社仏閣の建造物や古墳なども多く見られます。

都市近郊の農山村

京丹波町は、国道九号、二七号、一七二号などの主要道路が走り、京阪神地域へ約一時間半でアクセス可能な都市近郊に位置する農山村。豊かな自然と、都市圏に近いという利便さを兼ね備えたまちであるといえます。

近年では、JRR山陰本線複線化や京都縦貫自動車道などが整備され、京都市などの大都市圏がますます身近になっています。また、情報基盤の整備も進み、都市との情報格差も解消されつつあります。

こうした地の利を生かして、都市・農村の交流も盛んになっています。

丹波ブランドの産地

京丹波町は、丹波高原に位置し、標高四〇〇～六〇〇メートルの山々に囲まれた緑豊かなまち。夏から秋にかけては、夜間と日中の温度差が極めて高く、しばしば霧が発生します。

これは内陸性気候のもつ独特のもので、古くから「丹波の霧は深い」ことは有名です。この地域で発生する霧は一般的に「丹波霧」と呼ばれ、霧の冷却効果で、名産の黒大豆、小豆などは、いっそう大きく、おいしく育ちます。

「丹波」といえば何といってもマツタケ、クリ。京丹波町も全国的に名高い「丹波マツタケ」「丹波クリ」の産地です。マツタケは近年、減産傾向にありますが、香り、形ともに最高級の逸品です。

豊富な地域資源

丹波地方は古くから、都（京）に近い地の利を生かして、都との大きなかわりのなかで発展してきました。

一方、盆地や谷、由良川およびその支流の

▼山獄説

四方を山に囲まれ、その間にわずかな土地があるところから、谷の間にある土地、すなわち「谷羽」「谷端」と書いていたものが後に丹波となったという説。

▼田庭説

太古、豊受比売命がこの地域に稲種をまいて米を作ったので「田庭」というようになり、これが丹波になったという説。

（丹波町誌から引用）

現在では、神々に供える穀物を育む豊かな土地という意味の「田庭」が変化して、丹波になったという説が、一般的に受け入れられているようです。この名前の由来が示すように、京丹波町は、田園豊かなまちです。



「京丹波町らしさ」のある まなまを「京丹波町」に込められた思い

町名「京丹波町」に込められた思い

わたしたちのまち「京丹波町」の町名には、どのような思いが込められているのでしょうか。

新町の名称募集で応募のあった、九六三通のうち、「京丹波町」は二五五通ありました。合併協議で熱い議論がなされ、決定された町名に込められた思いをみていきます。

●「丹波篠山」といった名称があったり、今度新しく「丹波市」ができていたりすることもありますが、この京都の丹波地域というのは、全国にも誇れるようなさまざまな特産物を持っていますので、京都の丹波、「京丹波」という簡単な呼び方で、京都の丹波地域を総称する「京丹波」を推薦します。

●全国ブランドと「京丹波」においては、兵庫の丹波と区別をする必要があることから、京都の丹波であることを表

す「京丹波町」を推薦します。これからはインターナショナルな時代で、国際化の時代になってくると思いますが、そういう観点から町名を考えていかなければならないのではないのでしょうか。

そういう意味で、国際的な知名度がらうとすると、「京都」は世界的にも名の通ったところですし、全世界の人があこがれて来るころだと思えます。そのイメージというのは、やはり大事にすべきではないのでしょうか。

日本、あるいは地域という、今までの狭い考え方だけではなく、もう少し広く考えて、これからの子どもたちが育っていくなかで、世界へ行くときに、自分たちの町を「実はこんなんですよ」と胸を張って表現ができる町であってほしいという願いを持っています。

そういう意味で「京丹波」といえば日本でも分かりますし、国際的にも「京丹波」といえば、通じる部分もあるのではないのでしょうか。

(第九回丹波町・瑞穂町・和知町合併協議会会議録から引用)

町民の皆さんに聞いてみました

地域に誇りを持って、まずは身近な場所から地域の活性化を



四角透さん(下山) 京阪神などの都市圏に近いから、「田舎」と「都市的な暮らし」の両方を兼ね備えた地域ではないのでしょうか。快適な生活環境のなかで、子どもやお年寄りを大切にするまちになればと思います。

三つの町が合併して、観光資源も増えました。都市近郊の地の利や、発達した道路網を生かしながら人に来てもらえようなまちにしていかなければならないと思います。

また、全国的に知られている「丹波」のブランド名を生かした地域の活性化を考えていくことも大切だと思います。

わたしの住んでいる尾長野区は二十四戸の小さな集落ですが、毎年五月に、区内の神せん田に苗を植える御田祭から、その神せん田などで収穫したわらで大しめ縄を作り、京都祇園の八坂神社本殿に奉納するまでの伝統行事を、区の行事として、区民総ぐるみで取り組んでいます。これらの行事は、区民のふれあい・交流の場となっています。

自分たちの住んでいる地域に誇りを持って、まずは身近な場所から地域の活性化を考えていかなければならないと思います。

都市住民の皆さんに聞いてみました

「丹波」の地名のイメージは？ 「京丹波」を訪れたことは？



都市に住む皆さんは、「丹波」の地名にどんなイメージを持っているのでしょうか。

また、これまでに「京丹波町(旧丹波町・旧瑞穂町・旧和知町)」を訪れたことのある人は、どんな目的で訪れているのでしょうか。

十二月二十九日に京都市役所前広場(京都市中央区)で行われた「第八回ふるさと物産フェア」に出展した財団法人瑞穂町農業公社のブースを訪れた三十一世代の方五十人に聞いてみました。

「丹波」の地名のイメージについて尋ねた結果、一番多かったのが「豊富な食材や特産品」でした。食材や特産品の中でも、「丹波」といえば黒豆」という意見が大半を占めました。そのほか「マツタケ」「クリ」「ワ

イン」などの意見がありました。また、「丹波ブランドは大好きです」や、「丹波ブランドには、おもしろものがたくさんありますが、高級なイメージがあって、なかなか手を出しづらい」などの意見もありました。

「丹波」のイメージで二番目に多かったのが「自然豊かで美しい景観」でした。「景色がすごくきれい」「紅葉や田園風景が美しい」「新鮮な野菜があって良い」などの意見がありました。

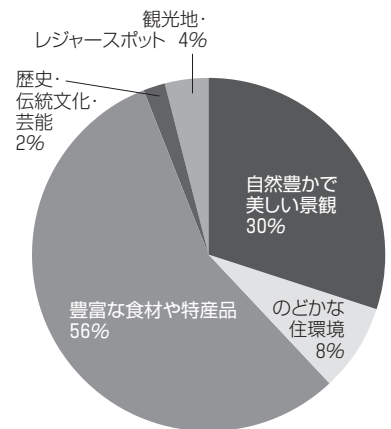
次いで多かった「のどかな住環境」では、「空気がきれいで、のどかな風景があって住みやすそう」や、「道路網が発達して開けてきた感じ」といった意見がありました。

「京丹波町(旧丹波町・旧瑞穂町・旧和知町)」を訪れたことありますか」と尋ねた結果、「目的地へ行く途中に通過した(立ち寄り)」が一番多く、次いで「訪れたことがない」「スポーツ・レジャーで訪れた」「観光やイベントで訪れた」と続きました。

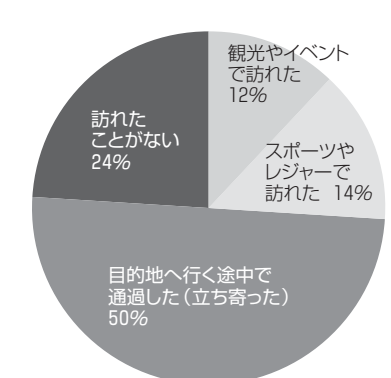
「目的地へ行く途中に立ち寄った」と答えた人のうち、大半が町内のドライブインや道の駅に立ち寄っていました。

また、「スポーツ・レジャーで訪れた」と答えた人では、グリーンランドみずほ、府立丹波自然運動公園、京都丹波高原ロードレースといった答えがあり、「観光やイベントで訪れた」人では、琴滝やグリーンランドみずほ、府立丹波自然運動公園、丹波ワイン工場などの答えがありました。

「丹波」の地名のイメージは？



「京丹波町(旧丹波町・旧瑞穂町・旧和知町)」を訪れたことは？



地域資源の掘り起こしと外に目を向けることも大切

升谷区のイルミネーションイベント「オージナリエ」実行委員会の皆さん



前列、出野均さん(左)・出野進さん(右) 後列、山口治雄さん(左)・山内康彦さん(右)

数人で実行委員会を立ち上げ、この冬初めて、イルミネーションイベントを実施しました。

(十四ページに関連記事) 企画したメンバーが「おじさん」中心であることから、神戸市のルミナリエをもじってイベント名を「オージナリエ」にしました。

地域に明るい光をともしたいという、十一月下旬から各世帯に呼びかけたところ、

三十軒ほどの家が賛同し、家屋や庭先に電飾しました。普段は暗くて、人通りの少ない区内が明るくなり、毎日、見物に訪れる家族連れなどの姿がありました。一人ではできないことも、区民が寄せれば色んな力が出てきます。この地域に住む人びとの特徴として、隣近所で支え合わなければならないという気風があり、人と人のつながりは強いと思います。こうした田舎ならではの良さを大切にしていきたいですね。

また、「丹波」というブランド名を使えるのも、この地域の強みではないでしょうか。丹波ブランドをPRするうえで、兵庫県の「丹波」と京都府の「丹波」との差別化を図っていくことも大事だと思います。

「京丹波町らしい」「まちづくりには、まずは自分たちの住んでいる地域を見つめ、地域資源を掘り起こし、生かしていくことが重要だ」と思います。併せて、外にも目を向け、ほかの地域の先進的な取り組みを取り入れながら、自分たちの地域にあった形にアレンジしていくことも大切だと思います。



シリーズ・地域の躍動① 笑顔とぬくもりがあふれる場所 わち大好き祭り

平成7年の旧和知町の町制40周年を記念して始まった「わち大好き祭り」。町民が集い、語り合い、楽しむ「ふれあいの場」として地域の人びとに親しまれ、今や和知の秋の風物詩として定着。昨年11月26日には、合併後初の同祭りが開催され、多くの人出でにぎわった。町民が主体的に運営した初の祭りでもあった今回の「わち大好き祭り」。行政主体から町民主体へと変わり始めた同祭りの今後の展望に迫ってみた。



いても、自分たちの地域のすばらしい施設を、もっとPRしていきたい思いもあって、「わち山野草の森」へ移したものの、来場者が減らないかどうか不安もあった」と山口さん。「けど、当日は大勢の人出でにぎわい、盛況だった。やって良かった」と笑みがこぼれる。

「一度に行政主体から町民主体へと変えるのは難しいが、今回の祭りで、今後は町民主体でやっていく基礎ができたのでは」と山口さん。そういう意味で今回は、意義深い祭りであったと力を込める。

地域住民を巻き込む「ついで」

さわやかな秋空の下、わち大好き祭りの会場には、はじやぎ回る子どもたちの笑い声、農林産物の販売や、もちつきなど、祭りの運営に奮闘す

る人びとの掛け声、久しぶりに出会った友人や知人との会話を楽しむ和やかな表情など、訪れた人びとのいきいきとした笑顔とぬくもりがあふれた。

山口さんは、「同じ地域に住んでいても、普段はなかなか出会うことのない人とも、祭りを通じて交流が深まっている」としている。

えで、「そういう大切な場を残していくには、経費的な面など課題も多いが、まずは、地域に住む一人ひとりが『わち大好き祭り』は、自分たちの地域の祭りだ」という意識を、より強く持つていくことが重要。そのためにも、もっと実行委員会の機能を高めて、地域住民を巻き込んでいく「しくみ」を考えていかなければ」と語った。

「課題をしっかりと話し合い、次に生かしていきたい。丹波・瑞穂地域にも参加を呼びかけ、地域間の交流も育めれば」と最後に山口さん。

新しいかたちの「わち大好き祭り」づくりが始まった。



わち大好き祭り実行委員長・山口侑夫さん

町民が祭りの運営に積極的にかかわった

わち大好き祭りは平成7年、旧和知町の町制四十周年を記念し、これまでのイベント名を変更するとともに、内容も豊富にして始まり、以来、地域住民に親しまれ、和知の秋の風物詩として定着。

昨年十一月二十六日には、合併後初となる同祭りが開催された。今回の祭りは、計画や準備に町民が積極的にかかわり、町民が主体的に運営した初の祭りでもあった。

「これまで祭りの運営は行政が引っ張ってきたが、今後、この祭りを地域の祭りとして続けていくには、町民自らが積極的にかかわらなければ」と、わち大好き祭り実行委員長の山口侑夫さん（長瀬）は話す。祭りの内容の企画や、のほり・テントの設営などの会場準備に実行委員らが動いた。

町民主体でやることで基礎ができたのでは

同祭りの実行委員会は、商工会や森林組合、社会福祉協議会、農協、婦人会、そのほか各種団体の代表者ら三十三人で構成。九月上旬から六回にわたって会議を開き、委員らは祭りの企画を練った。

会場をこれまでの和知ふれあいセンター（本庄）から、わち山野草の森（坂原）へ移し、福引抽選会や和知人形浄瑠璃の公演など新しい企画が生まれた。

「祭り本番までの諸準備すべてが、手探りの状態であったというのが正直な気持ち。会場につ

参加者の声

大好き祭りは、出会いの場であり、ふれあいの場

野間貞子さん（坂原）



農村女性生き生きクラブのメンバーで参加しました。わち大好き祭りは、地域の人びとの出会うの場であり、ふれあいの場だと思っています。地域の祭りとして、これからも続いていくことを願っています。

反省会で課題を話し合い、充実していければ

小松重子さん（升谷）



合併して、今年の祭りはどうなるのかなと思っただけで、こうして祭りが開催できて、たくさんの方に来てもらって良かったです。今後もしっかり話し合い、充実していければいいですね。



教育長
山本和之

旧丹波町の参事、総務課長などを経て、平成14年5月から平成17年10月まで同町教育長。高岡在住、58歳。



助役
上田正

旧瑞穂町の参事兼企画総務課長などを経て、平成14年4月から平成17年10月まで同町助役。鎌谷奥在住、60歳。



助役
堀郁太郎

旧和知町のバス事業課課長補佐などを経て、平成15年1月から平成17年10月まで同町長。本庄在住、53歳。

人の動き

(敬称略)

十二月二十六日に開かれた議会定例会の本会議で、助役に上田正氏と堀郁太郎氏の選任が同意されました。任期は四年。また、十二月十二日には合併後初の教育委員会が開かれ、教育長に山本和之氏が選任されました。

そのほか各行政委員に次の方々が選任されました。

- 公平委員会委員
片山確(中)▼北村勝(美勢)▼大西好美(質美)
- 固定資産評価審査委員会委員
藤田義(本庄)▼真野耕太郎(新水戸)▼上田公美(橋爪)
- 人権擁護委員
再任/澤田幹生(下乙見)
新任/谷碩子(質美)
退任/谷芳子(質美)
- 教育委員
教育委員長/水嶋正治(質美)
職務代理者/大田喜好(大迫)
岩崎正子(富田)▼阿部定(中台)
▼山本和之(教育長)
- 京丹波町民生児童委員協議会
十一月二十九日、京丹波町民生児童委員協議会設立総会が開かれ、次のおり役員が決まりました。
会長/坂本教夫(猪鼻)
副会長/小谷郎(口八田)▼吉田哲治(細谷)▼田畑龍子(質美)
会計/山村彰(豊田)
幹事/熊谷しゅん子(美勢)▼谷垣勇(水原)▼片山勝紀(広野)▼乾きよの(大倉)

1月

- 第11回合併協議会で新町まちづくり計画が確認され、合併協定項目の協議がすべて終了(19日)
- 丹波町・瑞穂町・和知町が合併協定を締結(24日)

2月

- 丹波町・瑞穂町・和知町の議会臨時会で合併関連議案が可決(23日)
- 三町長が京都府へ「廃置分合」を申請(25日)
- 丹波町議会が全国町村会議会議長会表彰を受章

3月

- 丹波町・瑞穂町・和知町が次世代育成支援行動計画を策定
- 京丹波町準備室を開設(7日)
- 瑞穂病院移転新築工事しゅん工式を開催(12日)
- 丹波町が毎日新聞・地方自治大賞奨励賞を受賞

4月

- 和知診療所の改築工事が完成し、開所(16日)

5月

- 丹波町の姉妹都市オーストラリア・ホークスベリー市から留学生6人が来町(6日)
- 丹波町合併50周年記念式典を開催(29日)

7月

- 和知簡易水道新中央浄水施設がしゅん工(7日)
- 和知町町制50周年記念伝統芸能フェスティバルを開催(17日)

8月

- 2005たんば夏まつりを開催(5日)
- きょうと瑞穂まつりと納涼大会を同時開催(17日)
- 和知町町制50周年記念式典とふるさと祭りを開催(27日)

9月

- 瑞穂ケーブルテレビが地上デジタル放送の送信サービスを開始(1日)

10月

- 瑞穂町閉町式を開催(1日)
- 瑞穂町の三ノ宮町営住宅が完成(6日)
- 和知町閉町式を開催(7日)
- 丹波町閉町式を開催(8日)
- 丹波町・瑞穂町・和知町が合併し、京丹波町が発足(11日)

11月

- 2005京都丹波高原ロードレースを開催(3日)
- 町体育協会が発足(9日)
- 町長選挙で松原茂樹氏が当選。町議会議員一般選挙で新議員18人が決まる(20日)
- 松原町長が初登庁(24日)
- わち大好き祭りを開催(26日)

12月

- 町シルバー人材センターを設立(17日)



丹波町・瑞穂町・和知町が合併協定を締結(1月24日、町中央公民館)



瑞穂病院移転新築工事が完成し、しゅん工式を開催(3月12日)。3月22日にオープンした。



和知町町制50周年記念伝統芸能フェスティバルを開催。伝統芸能を通じて町民の交流が深まった(7月17日、和知ふれあいセンター)

和知簡易水道新中央浄水施設がしゅん工(7月7日、下乙見)



丹波町合併50周年記念式典を開催(5月29日、町中央公民館)。8月には、和知町町制50周年記念式典を開催



2005たんば夏祭りを開催。家族連れなど大勢の人でにぎわった(8月5日、須知)



丹波町・瑞穂町・和知町が合併し、京丹波町が発足(10月11日、役場前)



2005京都丹波高原ロードレースを開催。京丹波町の発足記念となった今大会には、全国から3,800人が参加し、色づく秋の丹波路を快走した。



合併に伴う京丹波町長選挙(11月20日執行)で当選した松原茂樹町長が初登庁(11月24日、役場前)

読者の皆さんが情報発信するコーナー

地域の伝言板 わくわくBOX

「冬ほたる」を見に行きました。暗闇の中、水の音、滴へと案内してくれる無数の光。終点には、空から降り注いでいるのかと錯覚してしまうような真っ白な十三本の光のラインが…。

今までに見たことのないイルミネーション。すごく神秘的で激・感動モノでした。

街なかではこの時期、軽快なクリスマスソングが流れ、赤や黄色、緑や、オレンジ…様々な色のイルミネーションが飾られています。ウキウキ気分が笑顔がいっぱい。そんな中、この「冬ほたる」は、心がスーッと何かに吸い込まれていくような…。いつまでも静かに見続けていたいような、とても魅力的な空間&時間でした。

関係者の皆様、すてきな空間をプロデュースして下さってありがとうございます。この企画がずっと続きますように…。(勝手なお願いを込め)

(「冬ほたる」ファンより)

このコーナーは、「身近に起こった出来事」や「感動したこと」、「みんなに教えてあげたい・わたしの健康術」、「こんなサークル活動始めました」、「まちづくりについての意見」、「広報紙への感想」、「イラスト・絵画・写真」、「エッセイ・詩・俳句、川柳」など、読者の皆さんの身近な情報発信としてご利用ください。はがきに住所・氏名・電話番号を記入のうえ、情報をお寄せください。匿名希望やイニシャルの場合は、氏名を記入したうえで、その旨を明記ください。(お寄せいただいた情報は随時、掲載します。)ファックス、Eメールでも情報をお待ちしています。

送り先

〒622-0292 (住所不要)
京丹波町企画情報課広報京丹波「わくわくBOX」係
ファックス/82-2500
Eメール/kikaku30@town.kyotamba.kyoto.jp

人権の大切さ呼びかける

人権週間（十二月四日～十日）の取り組みとして十二月五日、道の駅「瑞穂の里・波マーケス」や、道の駅「瑞穂の里・さらびき」、JR和知駅前など町内五カ所で行った啓発活動を実施。小雪が舞う中、人権擁護委員や町内各種団体、府・町職員ら約三十人が街頭に立って、買い物に来た主婦やお年寄りらに標語の入った啓発品を手渡ししながら、人権の大切さを呼びかけました。



小雪が舞うなか、啓発活動に取り組む委員ら（道の駅「丹波マーケス」）

シルバー人材センターが発足

十二月十七日、瑞穂保健福祉センターで、京丹波町シルバー人材センター設立総会が行われ、旧丹波・旧瑞穂両センターの会員や、和知地域の町民ら約百人が出席。定款や役員、来年度の事業計画などが決まり、来年度の法人化申請のための設立代表者に東好晴さん（質志）が選ばれました。

設立にあたっては、旧三町の合併に伴い、旧丹波町・旧瑞穂町の両センターを統合し、センターのない旧和知町にも工



リアを拡大する方向で昨年四月から協議を開始。五月に両センターと旧和知町社会福祉協議会で統合協議会（東好晴会長）を立ち上げ、統合に向けて準備が進められてきました。

開会のあいさつを述べる東好晴・統合協議会会長（瑞穂保健福祉センター）

新年に願い込め、豪快、しめ縄づくり

十二月十八日、丹波・尾長野区で恒例の京都祇園八坂神社本殿の大しめ縄作りが行われ、同区民らが三本のわらを豪快に寄り合わせ、九本のしめ縄を作り上げました。

しめ縄に使われるわらは、五月に同区で行われる御田祭で神田に植えられたもので、完成したしめ縄は同月二十二日に八坂神社へ奉納されました。

この行事は、八坂神社の分社が尾長野区にあることから、同区で営ま



かけて声に合わせて、大しめ縄をなう区民（尾長野区・藤田健司さん宅倉庫）

れている伝統行事。昭和四十五年からは区の行事として取り組まれていきます。

下大久保ふれあい文化祭開催

十二月四日、瑞穂・下大久保の文化教育センターで「ふれあい文化祭」が行われました。

同文化祭は「考えよう、あなたの人権、わたしの人権」をテーマに、住民相互の連携と協調を図りながら、文化活動への取り組みをより一層高めることを目的に毎年開催されています。

同文化祭には町民ら約百五十人が参加。地域の文化サークルやグループなど五団体の舞踊や寸劇、コーラ



スなどが発表され、会場は笑いと拍手に包まれました。

下大久保ふれあい文化祭（下大久保文化教育センター）

まちの活性化へ光の競演

琴滝とその周辺の遊歩道を発光ダイオード（LED）で飾るイルミネーションイベント「冬ほたる」が、十二月十日～二十五日まで行われ、冬の新しい風物詩として注目を集めました。

このイベントは、町内の若手商店主らでつくる「丹波みらい研究会」（岩崎栄喜雄会長、須知）が町の活性化を目的に企画し、琴滝までの遊歩道沿いの並木を五万個以上の青と白のLEDで飾りつけ、ホタルが舞う幻想的な光景を演出。滝には、流れ落



琴滝のイルミネーションイベント「冬ほたる」



升谷区のイルミネーションイベント「オージーナリエ」

ちる水を表現した光のオブジェを設置し、町内外から訪れた大勢の観客を魅了しました。

一方、和知・升谷区でも、同区の民家を電球で飾るイルミネーションイベントが、十二月二日から約一カ月にわたって開催されました。

このイベントは、同区の区民十一人が地域の活性化を目的に企画。実行委員会を立ち上げ、十一月末に区内の各世帯に参加を呼びかけました。

区内の約三十世帯が賛同し、家屋や庭先を電飾。区内一帯が色とりどりの鮮やかな光に包まれ、見物にきた家族連れなどの目を楽しませていました。

森林浴レストランが食品衛生優良施設に

グリーンランドみずほ内の森林浴レストラン「グリーンランド」がこのほど、社団法人京都府食品衛生協会長表彰（食品衛生優良施設）を受賞。施設を衛生的に管理し、公衆衛生の向上に寄与した功績が認められての受賞です。

同施設は昭和六十一年にオープン。以来、松山仕出し店会を母体とするグリー



グリーンランド協力が施設の運営にあたってきました。

代表の小山利明さん（大朴）は「町の活性化のためオープンして二十年。色んなことがあったが、この受賞を糧に、さらにより良い施設の運営に努めていきたい」と話していました。

森林浴レストラン「グリーンランド」の従業員の方たち

てんぷら油で車が動いた！

総合学習の時間で環境問題について学習している竹野小（北村友子校長、四年の児童が十二月九日、家庭から出る廃食用油でディーゼル自動車を走らせたり、バイオディーゼル燃料を精製したり、ろうそくを作ったりする珍しい体験を通じて、家庭ごみの資源化について学びました。

講師を務めたのは、同小校区内在住で、環境NGO・手づくり企画「ジャーニー・トゥ・フォーエバー」で活動する平賀緑さん。

平賀さんの話によると、バイオディーゼル燃料とは、食用油を主原料として作られる再生可能な軽油代替バイオ燃料で、揚げ物に使われた廃食用油からも精製可



てんぷら油を給油して、いざ出発！

同小四年の小林祐くんは「普通なら捨てしてしまうので車を動かせたり、ろうそくを作れたりするのすごい。良い体験ができました」と感想を話していました。

地方自治の振興発展に貢献 旭日小綬章を受章

黒田一夫さん(77歳) 保井谷



「これまでお世話になった感謝を含め、社会に貢献していきたい。何か役に立てることを考えていければ」と今後について話す黒田さん。「自治体を取り巻く状況は非常に厳しいが、京丹波町の限らない発展を祈っている」と話を締めくくった黒田さんの穏やかな表情に、地方自治の振興発展のため情熱を注いできた半世紀の集大成を見た。

「叙勲は、これまで私を支えていただいた町民の皆様と共に受章したもので、私が代表して頂いたものと思っている」と話すのは昨年、旭日小綬章を受章した黒田一夫さん。

黒田さんは昭和二十三年、三ノ宮村役場に就職し、昭和二十六年に四力村が合併して瑞穂村が発足してからは同村役場に、昭和三十年の町制施行時から昭和五十年五月まで瑞穂町役場に在職。その後、十二年間、同町助役を務める。

昭和六十二年四月に町長に初当選し、合併に伴い瑞穂町が閉町した平成十七年十月十日まで十八年六月月にわたり町政を担当。京丹波町発足後は町長職務執行者を務めた。行政に携わって五十七年の間、地方自治の振興発展に貢献してきた。

前瑞穂町長としての約十八年間は、豊富な経験と卓越した見識、指導力をもって手腕を発揮。過疎化、少子・高齢化などの課題があるなか、さらにバブル崩壊後は地方財政の厳しい状況にあつて、精力的に町の活性化と住民福祉の向上に努めてきた。

特に、グリーンランドみずほや質志鐘乳洞公園など交流の拠点整備、下水道の整備、若者定住対策としての企業誘致、保健・福祉・医療の拠点となる町総合保健福祉センターや瑞穂病院の建築、情報化社会に対応したケーブルテレビの整備など、残した功績は大きい。

また、三町合併では、再三にわたり住民懇談会を開き、町民の多数の意見を大切にしながら、さまざまな困難を乗り越え、京丹波町の実現に力を注いだ。

「各施策は、国や府の支援、議員の皆様や職員の方の努力、何より町民の皆様のご理解があったからこそ実現できた」と黒田さんは話す。



編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年とは広報京丹波をご愛読いただき、ありがとうございました。また、取材などでお世話になった皆さんに厚くお礼申し上げます。今年もより多くの人に読まれ、親しまれる紙面づくりにがんばってまいりますので、広報活動にご協力をお願いします。

▼今回の特集「地域アイデンティティを考える」は、いかがでしたか。合併して約三カ月がたち、新しいまちづくりが進んでいくなか、いま一度、自分たちの住むまちを見つめ直す必要があるのではないかと感じ企画しました。原稿の締め切りとの戦いで、内容的にあと一歩踏み込めなかった感がありますが、皆さんと共に「京丹波町らしさ」のあるまちづくりに何が必要かを考えるきっかけになればと思っています。▼滝の「冬ほたる」と升谷区の「オーシーナリエ」。この冬始まった二つのイルミネーションイベントを取材しました。どちらも地域活性化への熱い思いが込められたもの。光り輝く鮮やかな電飾に、携わった方々の情熱とパワーを感じました。取材を終えて家路に。寒い夜道も心はあたたまりました。

(Y)

わたしたちの町

人口	17,877(-43)
男	8,498(-17)
女	9,379(-26)
世帯数	6,480(-9)

1月1日現在 / ()は前月比